

# I. 安全 Safety

## 【安全理念】

私たちは、今日に満足することなく、さらなる安全性と安心感を求めて強い信念と積極性を持って安全文化を醸成します。



## 安全基本方針

1. 関わるすべての人々の安全に対する責任を負います。
2. 確固たる安全のうえに高品質・高い生産性を成り立たせます。
3. すべてにおいて安全を優先し、積極的に安全な状態を維持します。また必要に応じて、作り出します。
4. 従業員一人ひとりが「事故を起こさない」という強い信念を持ち、会社は安全に対して時間と資本を惜しみません。

## 労災・車両・リフト事故の目標と実績

(単位：件)

2022年度	目標	結果	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
労働災害	0	2	0	0	5	1
車両事故	0	7	16	8	18	22
リフト事故	0	1	4	13	10	10

## 職場と行動の危険を取り除きます

従業員を怪我のリスクから守り、安心して活躍できる職場をつくります

## スクリーニングチェック

大小さまざまなハザードや危険行動に繋がるリスクを洗い出し、改善をタスク化。時には荷主様にもご協力をいただきながら改善していく「事故の未然防止活動」です。重要なことは、さまざまな視点でチェックすることです。当たり前は、人によって違います。そのため、異なる拠点の従業員・安全活動の専門家・上位職者などが参加し、各々の視点から抽出したリスクに基づき、議論を重ね、「あるべき姿」を定める活動をしています。

### 【実施回数】

2022年 目標	対象拠点 各6回
2022年 実績	67% (各4回実施) ※まん延防止等重点措置期間中は中止
2023年 目標	対象拠点 各6回



## 安全道場

リフト作業におけるトラブルや事故は、安全確認不足（指差呼称など）などの慣れからくる基本行動の逸脱が大きく起因しています。安全確認に対する基本行動を常に意識し、疑似体験できるよう、全拠点に「安全道場」を設置しています。安心・安全な職場づくりに、作業者が自発的に携わっています。

### 【計画に対する実施率】

2022年 目標	100%
2022年 実績	100%
2023年 目標	100%



## Qspec※ミーティング

Qspecミーティングは、“現場の意見を大切に”することに重点を置いています。Qspec推進グループ担当者と全拠点の作業リーダーが連携し、現場の変化を即時に捉え、共有することにより必要なアクションを起こします。作業環境は取扱量の増減や作業時間の流れなどにより、刻一刻と変化するため、リスク回避のルール設定が重要となります。日々変化する作業環境とルールがマッチしているかをQspecミーティングでチェックすることにより、安全・品質の向上に繋がっています。



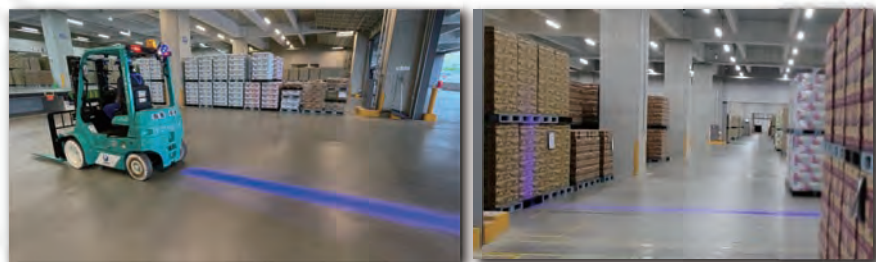
※Qspec

- Quality: 品質
- Safety: 安全
- People: 人々が中心となり
- Environment: 環境
- Compliance: 法令遵守

## ヒヤリハットレポート

日々の業務の中で、事故に繋がりがかねない大小さまざまなヒヤリとした体験やハットした体験を従業員がレポートすることで、事故に繋がるような事象を振り返ります。全拠点にてヒヤリハットを共有することにより、各自が自分ゴト化するよう促すとともに、危険感受性の醸成を図り、事故の未然防止・作業品質の向上に繋がっています。

2022年度のヒヤリハット提出件数 2,432件  
提出された事象を分析し、講義形式で対策案などを全従業員にフィードバック。事故の未然防止・作業品質の向上を図っています。



事例)「フォークリフトのバック音では複数台が反響し、死角からの接近がわからず驚いた」という多数のヒヤリハットから、全フォークリフトにブルーライトを設置。目視でも確認できるように改善しました。

【講義受講率】

2022年 目標	全従業員100%
2022年 実績	100%
2023年 目標	全従業員100%

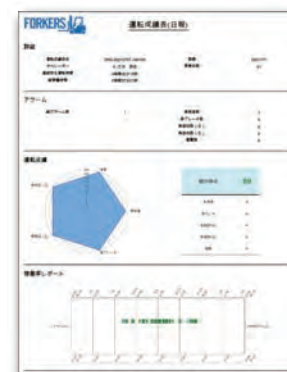
## 安全指導の進化

2021年4月より、フォークリフト全車に「FORKERS（三井情報株式会社製）」を装着しています。FORKERSとは、IoT技術によりフォークリフトの危険運転時の映像や危険運転種別・発生時間・発生回数などの数値を抽出することができるツールです。数値結果に基づき、タイムリーかつ効果的に安全運転指導を行うことができ、事故の未然防止・作業品質の向上に繋がっています。

数値に基づく診断結果のため、運転技術の向上だけでなく、仕事を通じた自己成長にも繋がっています。

【運転成績平均得点】

2022年 目標	99.55点
2022年 実績	99.90点
2023年 目標	99.92点



※採点基準は当社設定に準ずる

## フォークリフト選手権

日々のフォークリフト操作・点検の技量を発表する場として、荷主様主催のフォークリフト選手権に積極的に参加しています。社内選考により選ばれた参加者は、選手権後もプロフェッショナルとして現場の安全指導にあたります。





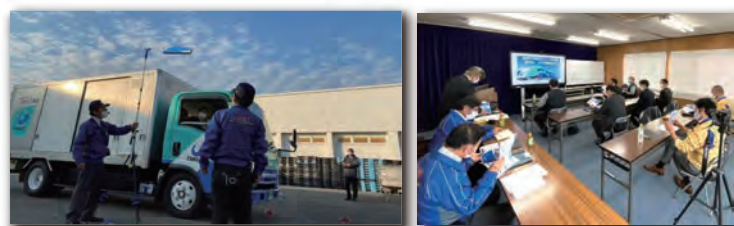
## 安全意識の醸成

### 原点回帰講習

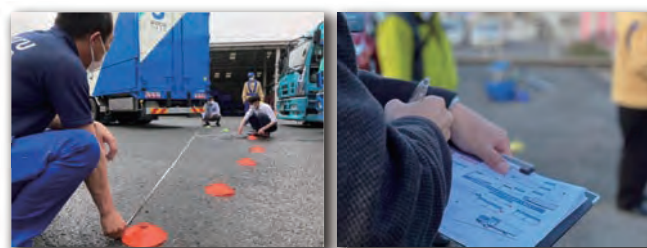
運転技術の原点回帰をテーマに、前後左右の距離感、ミラー・バックモニターの限界、トラックの死角や停止距離などを確認する講習を実施しています。人間の「感覚」とはいかに曖昧であるかを乗務員が実感し、安全確認の重要性を再認識することを目的としています。勘や経験に頼らない、理論に裏付けされた安全指導を定期的に行っています。

#### 【受講者数】

2022年 目標	対象者の100%
2022年 実績	100%
2023年 目標	対象者の100%



外部から講師を招き、社内講師を育成



社内講師による理論に裏付けられた安全指導

### タイヤ点検講習

タイヤの不具合は、大きな事故に繋がる恐れがあるため、タイヤ点検は非常に重要な点検項目のひとつです。

タイヤメーカー様から講師を招き、タイヤの基礎知識などの座学とともに、実際に車輪にトラップ（空気圧低下・ボルト緩み）をしかけ、乗務員が異常状態を見抜くことができるか、テストも実施しています。

誤った見解を持っていないか、装備などに関する正しい知識が身についているか、点検スキルを過信していないかなどを定期的に確認・学習することにより輸送品質の向上に努めています。

#### 【受講者数】

2022年 目標	対象者の100%
2022年 実績	100%
2023年 目標	対象者の100%



### ドライブレコーダーのチェックによる運転指導

全車両（トラック）にドラレコを搭載。ドラレコから得られる危険運転アラート（急制動・急旋回・車間距離など）の発生情報・スコア化されない運転状況（車線変更・イェローストップ・交通弱者保護など）の映像をチェックし、個別指導を実施しています。

#### 【ドラレコ運転映像チェックによる指導】

2022年 目標	対象者の100%
2022年 実績	100%
2023年 目標	対象者の100%



## ナスバネットによる視力・反応・動作診断

ナスバネットとは、独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が提供する自動車運転の適正を測定するシステムで、「運転のクセ」「加齢による動作の変化」を乗務員自身が認識するための診断ツールです。

合通トラスコでは、各拠点にナスバネットを配備しています。

個人のスコアは毎回蓄積され、実績と比較しながら社内の専属トレーナーがアドバイス・指導を行います。

また、フォーカー（リフト作業）の適正診断にもナスバネットを活用。乗務員やフォーカーは、客観的なスコアを基に自身の運転特性を把握することにより、安全と品質の向上に努めています。



### 【検査受診者数】

2022年 目標	対象者の100%
2022年 実績	94.2%
2023年 目標	対象者の100%

## 衝突回避支援・被害軽減システム搭載車の導入状況



※出典：先進安全装備\_1 | 安全性 | ISUZU：GIGA（大型トラック） <https://www.isuzu.co.jp/product/giga/safety/>

### ◇大型車

保有数 32台 システム導入台数 24台 導入率 75.0%  
2025年までに導入率100%を目指す

### ◇中型車・小型車

保有数 46台 システム導入台数 8台 導入率 17.4%  
2031年までに導入率100%を目指す

（2023年3月末日現在）

## ご安心していただける運転を目指して

私たちは、安全運転の一步先の“上質”な運転を目指しています。

「周囲の皆様にご安心していただける運転」を実現するため、全社一丸となり、さまざまな活動を行っています。

## 車間距離&車線変更

車の特性上、トラックの運転席からの目線では、前方の車との車間距離が実際よりも遠く感じられるため、車間距離を詰めてしまう傾向があります。乗務員には体験学習を通じて、この感覚のズレを理解させ、安全な車間距離の確保と、前方の運転者に圧迫感を与えないような運転のトレーニングを実施しています。

また、車線変更時の事故リスクを低減するため、方向指示器を出すタイミングや回数、車線変更時の車の角度にも踏み込み、運転マナー教育を実施しています。





## イエローストップ

イエローストップは、事故リスクが高まる交差点付近での「急」操作を防ぐ効果や、視野を広く持ったゆとりのある運転に結びつきます。  
「黄色信号で止まる」ということは、一見当たり前のことですが、この当たり前を確実に実施することで、事故リスクの低減・事故防止に繋げる活動を行っています。



## 車両美化をとおして

トラックの美化（洗車・清掃など）は、安全運転や事故の未然防止活動のひとつです。  
車両美化活動は、繁忙期には車両運行上、難しいケースも出てきますが、安全運転における社内ミーティングにおいて、複数の乗務員から「忙しいときほど、心を落ち着かせる意味でも車両美化活動を実施すべき」という意見があがり、乗務員・運行管理者が中心となり、車両美化活動のフローを構築しました。  
車両美化活動を通じ、安全・安心な運転へ繋げる活動を推進しています。



## 学校教育支援活動を通じて

小学生への職業講話や大阪府立の高等学校吹奏楽部の楽器運搬などの活動は、私たち物流業と子どもたちや地域社会との関わりを再認識させるものとなっており、安全運転の意識向上に繋がっています。

❖ 学校教育支援活動については、「地域社会」p.33をご参照ください。

